

# 月刊 ウィーン

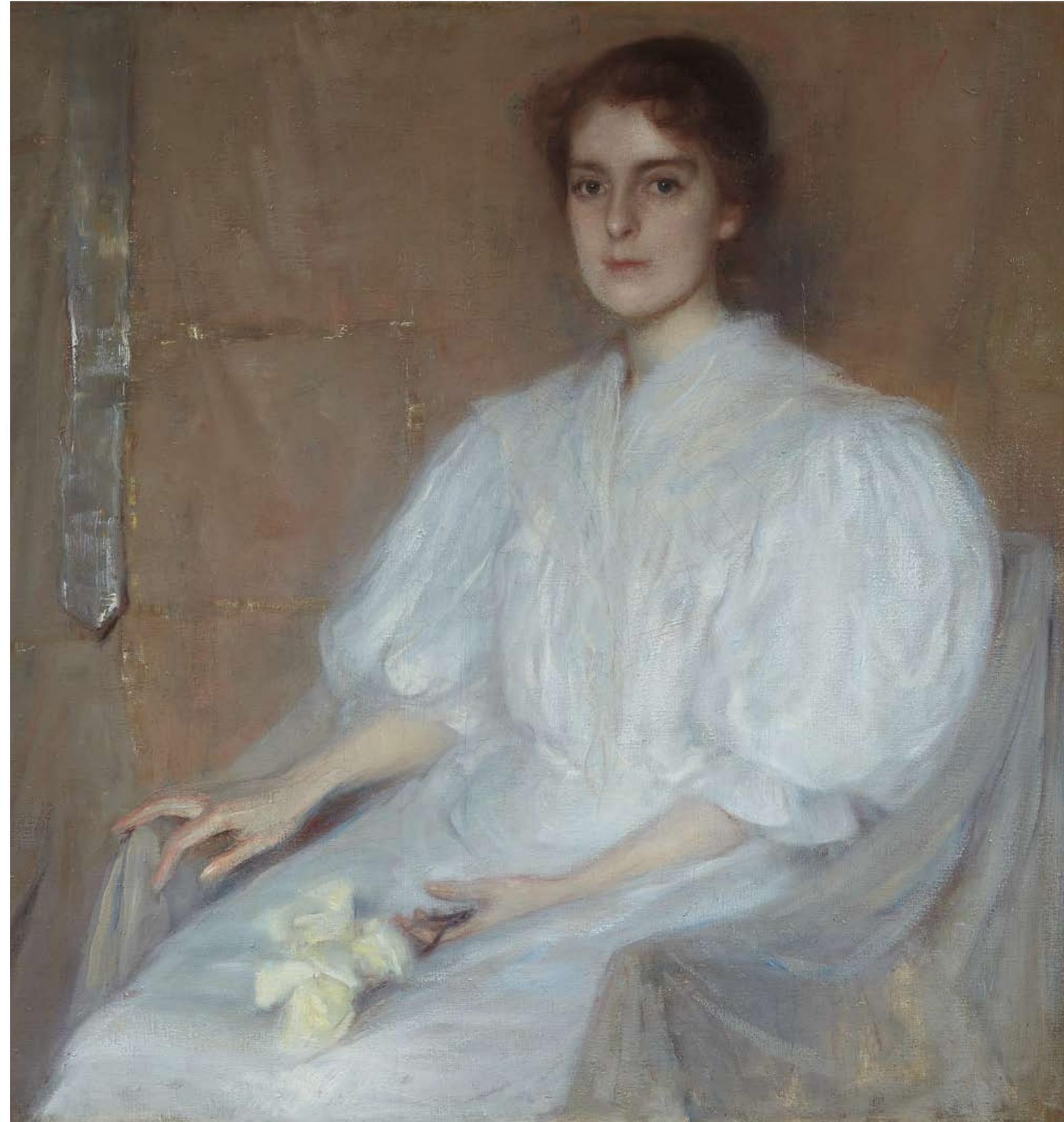
## GEKKAN-WIEN

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊36年目 **Nr. 415**

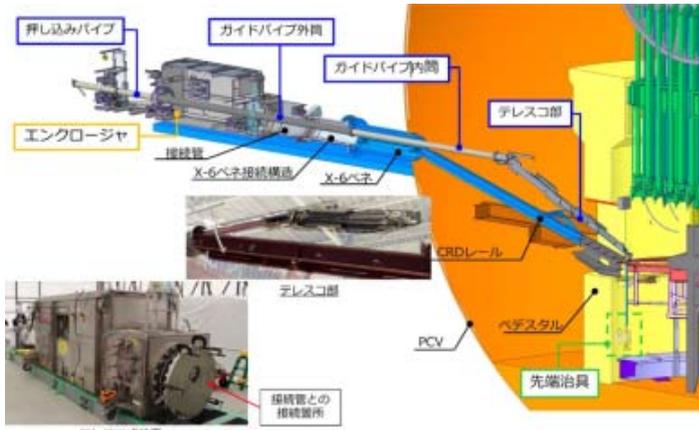
**2024年10月号**



# 杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都

148

東京電力は九月二日、福島第一原子力発電所2号機で行われている燃料デブリ試験的取り出し作業の動画を公開した。初の燃料デブリ取り出しを実施する2号機では、本格作業に向けてロボットアームの導入が計画されているが、今回、テレスコピ式装置（短く収納されている釣り竿を伸ばすイメージ）を、原子炉格納容器（PCV）にアクセスする貫通孔の一つ「X-6ベネ」から挿入。少量の試料サンプリングを実施し、その分析結果を踏まえ、今後の取り出し量拡大につなげていく方針である。



福島第一2号機・燃料デブリ試験的取り出しのイメージ  
<https://www.jaif.or.jp/journal/japan/24838.html>

今回、公開された動画は、テレスコピ式装置のアーム筒所に設置された先端治具監視カメラ、アーム先端部カメラ、アームテレスコ下部カメラ、アームチルト部カメラの四ヶ所の映像。東京電力として、試験的取り出し作業の着手とみなす「同装置の先端治具が隔離弁を通過する」状況（九月一日午前七時二〇分）を写している。

同社の広報担当者は、九月二日の定例記者会見で、映像を示しながら、同日の状況として、「ガイドパイプは約一七〇センチ挿入（PCVへは約九〇センチ挿入）され、『X-6ベネ』内でトラブルなく作業が進んでいる」と説明。翌三日の見通しとして「テレスコピ式装置は水平で最大に伸ばした状態になる」と述べた。今後の作業に向け、「発生し得る事案を想定し、それに応じた予防対策・対応方針を検討する」とした上、「引き続き安全最優先で緊張感を持って取り組んでいく」と強調。総勢六〇、七〇名（協力会社含め）の体制で当たっている状況下、週明け以降の作業予定について質問されたのに対し、「一歩一歩進捗した段階で見通しを示す」と、予断を持たずに対応していく姿勢を示した。

東京電力では八月一九日より、ホームページ内に「燃料デブリポータルサイト」を開設し、福島第一1〜3号機の燃料デブリに関するわかりやすい情報発信に努めている。（以上、原子力産業新聞記事「福島第一2号機 燃料デブリ試験的取り出しの動画公開」より転載。図中「r」参照）

同装置は、押し込みパイプ、ガイドパイプ外筒、ガイドパイプ内筒を介し、先端治具をワカサギ釣りのイメージでPCV内部に吊り降ろす。先端治具では約三グラムの試料を採取。各パイプを挿入の逆手順で引き抜き、運搬用ボックスに収納するという手順だ。八月二日より開始された作業で、押し込みパイプ（1.5m×5本）の接続準備中、現場の最終チェックにおいて、その一本目が計画していた順番と異なることが確認されたため、作業が中断。押し込みパイプの復旧作業および現場確認が完了したことから、九月一日より作業が再開した。

今回、公開された動画は、テレスコピ式装置のアーム筒所に設置された先端治具監視カメラ、アーム先端部カメラ、アームテレスコ下部カメラ、アームチルト部カメラの四ヶ所の映像。東京電力として、試験的取り出し作業の着手とみなす「同装置の先端治具が隔離弁を通過する」状況（九月一日午前七時二〇分）を写している。

同社の広報担当者は、九月二日の定例記者会見で、映像を示しながら、同日の状況として、「ガイドパイプは約一七〇センチ挿入（PCVへは約九〇センチ挿入）され、『X-6ベネ』内でトラブルなく作業が進んでいる」と説明。翌三日の見通しとして「テレスコピ式装置は水平で最大に伸ばした状態になる」と述べた。今後の作業に向け、「発生し得る事案を想定し、それに応じた予防対策・対応方針を検討する」とした上、「引き続き安全最優先で緊張感を持って取り組んでいく」と強調。総勢六〇、七〇名（協力会社含め）の体制で当たっている状況下、週明け以降の作業予定について質問されたのに対し、「一歩一歩進捗した段階で見通しを示す」と、予断を持たずに対応していく姿勢を示した。

東京電力では八月一九日より、ホームページ内に「燃料デブリポータルサイト」を開設し、福島第一1〜3号機の燃料デブリに関するわかりやすい情報発信に努めている。（以上、原子力産業新聞記事「福島第一2号機 燃料デブリ試験的取り出しの動画公開」より転載。図中「r」参照）

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両地に生きる動物（その三）を紹介したい。ウィーンでも愛猫家は多いが、種々の理由により猫が飼えない人のために、市内にねこカフェが何ヶ所ある。広々として清潔な室内に何種類もの猫がいて、なぜたり、飲食物をあげて猫と楽しい時間を過ごすことができる。ねこカフェの猫は、保護団体から譲り受けられたものがほとんど。オーストリアは日本のような野良猫の殺処分はない。欧州諸国の街では、あちこちで野良猫を見かけるが、ウィーンではほとんど見かけない。ウィーンにはそれだけ保護猫が多いということであろう（\*）。犬を飼っていると家族の一員と感ずるが、それは猫も同様である。ウィーン大学の二〇一一年の研究では、猫と人間の関係は人間同士の関係に似ることがあると分かった。四一組の猫とその

飼い主のやりとりを分析したところ、互いに強く影響し合っていて、相手の行動をコントロールすることもあった。猫は飼い主がしてくれた「良いこと」を覚えていて、あとでその「お返し」をすることもあるようだ。研究者らは報告している（#）。

一方、京都市右京区にある梅宮大社、子授け・安産の神様として知られるが、約二〇年前に神社の方が野良猫の仔猫を保護してから、現在では一〇匹ほどの猫が暮らしており、猫神社とも呼ばれる。下京区の因幡堂平等寺は、「病気の方の最後の拠り所として多くの信仰を集めており、二〇二二年の猫の日（二月二日）に無病守が登壇。猫好きの方がデザインし現在も人気を集める。三条京阪駅に近い壇王法林寺には、日本最古の招き猫伝説が伝わる。悪夢・盗難・火災などの災厄から守ってくれるとされる（\$）。京都にもねこカフェがいくつもあり、おしゃれなインテリア、自然の中に足を踏み入れたような緑いっぱいの中装、気分にあわせて過ごせるアットホームな空間など、それぞれに特徴。京都大学心理学研究室でも、ネコを対象にした比較認知科学の研究が実施され、（一）ネコは、音をもとにモノの存在を「想像」している、（二）ネコは、一度経験したことを「思い出」として持っている、ことを明らかにした。この研究成果が国際的に高い評価を得たことで、平成二九年度「京都大学総長賞」を受賞している（十）。



余談であるが、ウィーン勤務時には犬ほどは猫を見かけなかったが、あるカフェで黒い小さな猫を、女性が抱いていたことがある。京都では住んでいたマンションでたまに猫を抱えた住人とすれ違うことがあった。今月も両地に生きる動物を紹介することができた幸運に感謝しつつ、ウィーンねこカフェの写真を掲載させていただく（\*）。

参考ブログ：\*「ばよりん弾きのブログ」、#「ねこが最高のペットであることを示す九つの研究」、\$「京都の猫にまつわる社寺+ミュージアム」、+「ザッツ・京大」

■ 杉本純 元京都大学教授

元原子力機構ウィーン事務所長 ■

